

犬猫殺処分ゼロへの取り組みについて

奈良市では近年「犬猫の殺処分ゼロ」を掲げ、保護犬・猫に関する市内のさまざまな活動により殺処分を減らす取り組みを行っています。その数は年々減少しており、平成 20 年度では自然死・安楽死（※1）を除く殺処分数（※2）が 663 件でありましたが、昨年度の実績では 1 件に減少しました。

これは行政のみでなく、市民や民間事業者、動物愛護団体等の方々の協力を得ながら保護犬・猫の譲渡活動などに取り組んできた結果であり、近年スタートした新しい取り組み（保護猫譲渡会、犬猫パートナーシップ店制度等）も継続して実施しながら、今後も殺処分ゼロを目指し、取り組んでまいります。

※1 自然死・安楽死…負傷し治る見込みがない等、やむを得ず安楽死等を行うこと。

※2 殺処分…攻撃性や病気等があり、譲渡が難しいと判断し、処分すること。

- 本市における殺処分数（※2）は、平成 20 年度から平成 30 年度の間で 663 件から 1 件に減少
- 本市では、福岡市に次いで全国で 2 例目である「犬猫パートナーシップ店制度」を昨年度 6 月から実施。昨年度は 4 店が認定となり、約 400 件を超える誓約書が交わされた。
- 今年度も民間の動物愛護団体と連携し、保護猫譲渡会及び保護犬・保護猫譲渡相談会を開催予定

1 犬猫の処分等の推移（平成 20 年度から平成 30 年度まで）

| 犬、猫 (合計) 年度 | 収 容 数 | | | | 処 分 数 | | | | |
|-------------------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|------------|--------|-----|
| | 捕獲(A) | 引取(B) | 負傷救護(C) | 小計(D) | 返還(E) | 譲渡(F) | 自然死・安楽死(G) | 殺処分(H) | 小計 |
| H20 | 87 | 688 | 51 | 826 | 59 | 4 | 102 | 663 | 828 |
| H21 | 56 | 564 | 75 | 695 | 43 | 4 | 168 | 459 | 674 |
| H22 | 61 | 453 | 32 | 546 | 58 | 3 | 105 | 380 | 546 |
| H23 | 58 | 410 | 61 | 529 | 50 | 5 | 67 | 400 | 522 |
| H24 | 49 | 325 | 79 | 453 | 57 | 4 | 112 | 280 | 453 |
| H25 | 76 | 322 | 77 | 475 | 67 | 12 | 149 | 218 | 446 |
| H26 | 31 | 288 | 42 | 361 | 92 | 18 | 114 | 169 | 393 |
| H27 | 49 | 294 | 24 | 367 | 46 | 82 | 196 | 43 | 367 |
| H28 | 14 | 160 | 19 | 193 | 21 | 56 | 116 | 8 | 201 |
| H29 | 12 | 159 | 25 | 196 | 17 | 109 | 54 | 3 | 183 |
| H30 | 14 | 173 | 40 | 227 | 27 | 141 | 54 | 1 | 223 |

(注)H30 に譲渡ボランティア（個人 2、団体 9）が関わって譲渡した件数は 141 件のうち 43 件

2 犬猫の殺処分率の推移

- 平成 29 年度で保健所に収容された犬猫の数（負傷を除く）は、全国で約 10 万頭であり、うち自然死・安楽死数と殺処分数を合わせた数（※3）は約 4 万 3 千頭。
- 殺処分率（※4）としては、平成 20 年度の 87.7%に対し、平成 29 年度には 42.9%と全国的にも減少しているが、本市においては平成 30 年度で 13.9%となっており、全国的に見ても著しく減少している。

| 年度 | 区分 | 犬・猫の引き取り数(ア) | | | 犬・猫の負傷による引き取り数(イ) | | 総数(ア+イ) | |
|-----|-----|----------------|-------------------------|-----------------------|-------------------|-------------------------|----------------|-------------------------------|
| | | 収容数 (A+B)=I | 自然死・安楽死+殺処分 (J) (※3) | 殺処分率 (J/I) (※4) | 負傷収容数 (C) | 自然死・安楽死+殺 処分数 (K) | 収容数 (I+C)=D | 自然死・安楽死 +殺処分数 (J+K)=G+H |
| H20 | 全国 | 315,107 | 276,212 | 87.7% | 13,114 | 10,883 | 328,221 | 287,095 |
| | 中核市 | 38,314 | 32,161 | 83.9% | 2,059 | 1,782 | 40,373 | 33,943 |
| | 奈良市 | 775 | 717 | 92.5% | 51 | 48 | 826 | 765 |
| H29 | 全国 | 100,648 | 43,216 | 42.9% | 12,923 | 8,380 | 113,571 | 51,596 |
| | 中核市 | 17,962 | 7,679 | 42.8% | 3,050 | 1,907 | 21,012 | 9,586 |
| | 奈良市 | 171 | 37 | 21.6% | 25 | 20 | 196 | 57 |
| H30 | 全国 | 未公表 | 未公表 | — | 未公表 | 未公表 | — | — |
| | 中核市 | 未公表 | 未公表 | — | 未公表 | 未公表 | — | — |
| | 奈良市 | 187 | 26 | 13.9% | 40 | 29 | 227 | 55 |

※3 環境省の統計による殺処分数は、負傷を除いて、「自然死・安楽死」と「殺処分」の合計を示す。⇒ (J)

※4 環境省の統計による殺処分率は、負傷を除いた「自然死・安楽死」と「殺処分」の合計数を負傷を除いた収容数で除した値である。⇒ (J/I)

- 3 ミルクボランティア制度の実績（平成 30 年度から実施）
 - 登録したボランティアが保護された幼齢猫を生後 2 ヶ月まで預かり、ミルク給餌や排泄などの世話をを行う。
 - ボランティアにはミルクを支給するとともに、ヒーターなどを貸し出し
 - ボランティアに預けた猫の頭数 延べ 58 頭
- 4 保護猫譲渡会及び保護犬・保護猫譲渡相談会の開催（平成 30 年度）

6 回開催、来場者約 60 組、譲渡申込相談数 26 頭
- 5 犬猫パートナーシップ店での販売実績（平成 30 年度）
 - 平成 30 年 6 月 6 日から犬猫パートナーシップ店をスタート。
 - 認定店は、終生飼育をすることなどを購入者に誓約してもらい、マイクロチップを装着して犬や猫を販売し、奈良市の犬猫譲渡制度を伝える。
 - 認定数は 4 店（スタート時は 2 店）
 - 誓約書を書かれた件数 約 400 件

この制度を始めてからのご意見

テレビ放映があったこともあり、

- 関西（兵庫県・大阪府など）一円の、このような取り組みを行っている販売店から犬猫を購入したい。
 - 非常にいい取り組みだ、全国に広がれば良いのに。
 - なぜ、県内（生駒市と隣接のため）は行わないのか。
 - 動物愛護をこのように販売店でも進めるべき。
 - このような取り組みをしている会社で働きたい。（新入社員の志望動機）
- 6 飼い主のいない猫への繁殖制限手術補助金の実績（平成 30 年度）

メス猫 44 頭、オス猫 22 頭 計 66 頭 483,314 円
（補助上限金額 メス猫 8,000 円、オス猫 6,000 円）
 - 7 平成 31 年度の取組み予定
 - 保護猫譲渡会（3 回）及び保護犬・保護猫譲渡相談会（6 回）の開催
奈良県主催「考えよう！人とペットの災害対策」の 7 月のイベントにおいて、奈良市の啓発ブース(適正飼養)を出店する。
 - 犬猫パートナーシップ店制度、譲渡ボランティア制度、ミルクボランティア制度などを継続して実施